

**●漁況情報**

- 2月に入り、小坪漁協所属の漁業者による浅場（水深 12m前後）の刺網漁で、アンコウが獲れることがあるそうです。1回の操業で6～7kg程のアンコウが1～3尾掛かることがあり、一番大きいものは13.5kgもあったそうです。



刺網で漁獲されたアンコウ

**●浜の話題**

- 1月27日、当センター栽培推進部は横須賀市の浦賀港、久里浜港、北下浦港に、全長5～60mmのマナモコ種苗を合計約1,410個体（各港約470個体）放流しました。これは（一財）東京湾南部水産振興事業団からの委託事業であり、久里浜産のマナモコから採卵して種苗を生産し、放流を行っているものです。種苗の育成には、餌となる藻類の培養や稚ナマコを食害するケンミジンコ類対策など、様々な作業が必要となります。ナマコは底曳網や見突き、潜水漁業などの重要な漁業対象種で、放流により漁獲が増えることが期待されます。



放流したマナモコ種苗

- 2月1日、鎌倉漁協は、（公財）県栽培漁業協会が生産したクロアワビ種苗合計6,500個（漁協分：500個／殻長約30mm、（公財）相模湾水産振興事業団分：6,000個／殻長約25mm）を地先漁場に放流しました。同協会の協力によりホタテガイの貝殻に付けたアワビ種苗を、漁業者3名と担当普及指導員が素潜りで海藻の繁茂状況を確認しながら、生残率が高まるよう岩礁の割れ目などに丁寧に放流しました。



放流したアワビ種苗



放流のため潜水する漁業者

- 2月9日、小坪漁協は（公財）県栽培漁業協会が生産したクロアワビ種苗 7,000 個（漁協分：3,000 個／殻長 50 mm、（公財）相模湾水産振興事業団分 4,000 個／殻長 25mm および 50mm）と当センター栽培推進部が生産したサザエ種苗 18,600 個（漁協分：15,100 個、事業団分：3,500 個／ともに殻高 20mm 以上）を、地先漁場に放流しました。当日は、漁業者がカゴに入れたアワビ種苗を海藻のある浅海域へ安全に着底させ、自然な拡散を促しました。
- 2月 13 日、横須賀市の深浦漁港で「よこすか海の市民会議・よこすか海遊クラブ」主催の「わかめの刈り取り体験」が、横須賀市東部漁協横須賀支所旧田浦出張所の協力で開催されました。このワカメは一般から募集した市民が昨年 12 月に親縄に種挿体験をしたもので、その後漁業者によって育てられたものです。当日は万全のコロナ対策のもとで 43 組が参加して、漁業者が漁港に引き上げた親縄から、自ら種挿したワカメの株を刈り取りました。ワカメは大きく成長しており、参加者は皆さん喜んでいました。



ワカメ刈り取り体験の様子

- 当センター企画指導部（普及指導担当）では、昨年 11 月からカジメ養殖試験を実施しています。これは漁業者の磯焼け対策活動を支援するため、実験室内で維持管理してきたフリー配偶体（カジメの芽のようなもの）を用いて、カジメ種苗を試験的に生産しているものです。2月上旬現在、当センターの大池で育成している種苗は最大 10cm 程度まで成長しており、今後は種糸を親綱に挿して本養殖に移行する予定です。



種糸の上で育つカジメ幼葉